2025_0209 「金沢市の大雪（写真）」日々の理科 3839 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

北陸はもともと雪が多い土地です。新潟、富山、石川などの山間部では、時に２ｍを超す積雪にもなります。このあたりは、山形、秋田、青森、北海道と並んで、都市が近い場所としては世界でも屈指の豪雪地帯と言えるでしょう。

今回の「立春寒波」の影響は、山間部だけでなく都市にも及びました。写真は金沢市内に住む友人から送られてきたものです。特別な場所ではなく、ご自身の住むマンションのテラスだそうです。これだけ積もれば、お子さんの雪遊びには事欠きませんね。

ただ、雪は意外にも重く、１立米（りゅうべい／立方メートル）あたり 300kg にもなるそうです。私の山荘でも、止水栓のトタン屋根に数十 cm の雪が積もって、倒壊したことがあります。積雪地帯向けの「物置き」や「車のガレージ屋根」は、必ず「どのぐらいの積雪に耐久性があるか」が、カタログに明記されています。

雪は融けてしまえばほとんど水ですが、融けないうちは厄介者です。東京も２月下旬や３月になってから雪が積もることもあるので、引き続き気象情報には注意しようと思いました。

この写真で気づいたことは「つららの長さのと多さ」です。つららは夜間と昼間の寒暖差がないとできません。これだけ長いつららがたくさんできているということは、昼は比較的気温が上がり、融けた雪が夜間の寒さで少しずつ凍ったことを意味しています。また、遠くの乱層雲（または雪積雲）から下に落ちる「降雪帯」も写っています。金沢は晴れていたようですが、近くの街は大雪だったのでしょう。

2025 年 2 月上旬

石川県金沢市内